

夢の浮橋

302  
259

6 7 8 9 6<sup>cm</sup> 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 7<sup>cm</sup>

始



302

259

夢乃浮橋

夢の浮橋

夢の浮橋



おいに馬華齋と云男あり。こゝ男好きて古き夢を口ずさめど、  
 自から作ることいせたりき。さるをいかある夢よかさをいれけむ。  
 おとの年の名残に歌よまんと思ひ立ちたりし。かくて今日も  
 年尽くるとり小日の宵よ。あまをて筆硯を洗ひ清め、やぞ文机  
 に対ひて、いれあるるををか言ひ出づ。きとうち案ず。よ、ねし冬  
 最中の月いとさえて窓の戸より入りければ、かむりり月夜小  
 いともん。興りし。さる友をねて詠しかかさむ。つとて、月頃視  
 して。其の翁とよふ。おとれらる。翁と今宵ハ吾よま。とてや、  
 盃を手に首傾け居たるが、馬華齋を見て、あえれ。ち。年の暮は  
 あふかな。年の名残の月影ハあひり。さるもど、まづもやとて盃さ。つと

水々、馬革齋頭（はつゐたつ）も少うて「石と」某（はつゐたつ）に飲（はつゐたつ）侍（はつゐたつ）らば、たゞ月の某（はつゐたつ）に  
を羽と舟と主人としてまうてつとどとよ、翁（はつゐたつ）こちよげうち笑して、ち  
も舟よ主人とや、あられりるりかな、とて、三つ四つ紙の端（はつゐたつ）書きつけたりつと  
を馬革齋（はつゐたつ）と見せらる、馬革齋（はつゐたつ）「いづかき、符言（はつゐたつ）をかめたまふ、某  
一々論（はつゐたつ）いんとて見してりくまに

是れ古今集の焼きまゝなり。

あはきなり花の紅葉にかへり、と契り、年の末の松山

此れ新古今風の出来損ねとぞいともよし。

盆をきこりとりとちで我が送つと年の名残の月影あえし

こまに万葉伝の門前を馳是とて過ぐものぞ、をまりうとちて次

うかしく、今年も今日こそよし

とある

まよふこよひも遊びくらまじ

とついで、かりくとい矢ふ、義眉うちひをめて、「情（はつゐたつ）なまきり、まよふこよひな、

さむれ、舟よとて遊びくら主人とありし、さうげ（はつゐたつ）美（はつゐたつ）きよめとよ、馬革齋

よ、よ及ぶとて

来心（はつゐたつ）の餅のつひ

くれてりく年ハさすかを、ルルと餅（はつゐたつ）くひたさ、明日さまつ心の中（はつゐたつ）のなかみ、骨牌（はつゐたつ）、東（はつゐたつ）舞（はつゐたつ）、雑煮（はつゐたつ）とちろん

周年（はつゐたつ）もさすまて、今日ハもや雑煮（はつゐたつ）たらふく、良（はつガたつ）ハまじり（はつガたつ）のみを

まよまづて息（はつガたつ）こぞいひつけ、ふ、前果（はつガたつ）と果て、さり、口（はつガたつ）拙（はつガたつ）る

さしよ、あいな、いかに餅（はつガたつ）は、とて、かくおらつけ、さす、まよふこよひの、春

と待つとて、此の初音（はつガたつ）を熱び、まづ咲く花を思ひ、こころありと、いかに、

本むまの、花のなみ、ちかりせば、今日の別（はつガたつ）もよとよ、見ま、や

春のついで

歌ハかくよむべきもどきを論せば、馬華齋なりしとうち笑ひて、翁の  
論ハなみくは泥ぬり、花も園子とよに侍らずや、翁ハ益々悲び、我ハ  
むちいと思ふ、何のけぢめかあらんとて

君が執る益の似て園かなり、我が食人するもち月のかげ

とよ、翁も覺えず、手拍も、げまは言はれたり、さぞよこハ月よそよ

へて言ひつればこそさういふ、うちつけもどか拙をし、され歌よまんとして、さ

わりの心ねあるべきゆゑこよ、馬華齋、何のよも月花よそよふが風

流と思ふこそ、頑なれ、さばさかたくなりともよし、ささすちのされ歌一首

よみ終へて、翁も、翁も、歌をこそよめ、され歌をえよまんやこよ、馬

華齋、翁が字とする古今集に物名とよ、體あんり、これとされ歌ハ一

種で、今年ハ壬の辰の年なれば、そを向の中、こめて、ささすちの歌よみ

終へて、書むれば、そいと日かきりとして

手の字にむかし  
北をさすはあ

水の江のたつの都の玉くげあさわび、今年暮る

さよ翁の名とこめて、歳暮の心をよみ終へて、いへく、翁の名をけれ、

そこの名とこをよめのとて

あてき見ら朝日ニありませす、かく歳暮にあれし、

志たう、歳うちを笑ひて、方不も益を重ぬめり、馬華齋も、すが若ん、

さうはとしのくれとよ五文字を向毎の終よす、老て、歳暮よ、

かけれ、志たう、首傾、や、わが歌、ひけり、

うかくと、あたよくら、年月の、今をたいたく、惜しくこそあれ、

馬華齋、大あくびをかきて、あな、わむた、

勝折、

考して、ソで、あな、とこ、こを、望まめ、と、ソで、冷やり、うち、笑ひて、いと

興ある、ゆ、い、かな、難題、と、おはせて、直、覽せよ、およそ、翁の、心、ん、ほ、

のよハ、月日のいづがごと、年波の流るがごとよみなく詠みたる人、と  
を張るも、而も構へたるまよいとをうし、さうは、若葉調の狂奇一首  
つかまつれと云ハ、馬革齋、頭うちうて、をいへんまをし、され歌ハ、今様  
んことふさハ、ルも、ちき調ハ、要なきなり」として、諾めぬを、ゆるも、時とて  
あさびぞと、絶ちた、責めければ、幸うとて、呻き出でたる

すき、暇のくしと  
いへ、雑煮條  
せん方なきの若し、まがれ、又も、餅うかつぎ、出たり、こせをう、ルと、し、弱と  
うち、笑ひて、さうは、今の人、よめ、らん、也、う、ち、歌、仕、れ、と、云、な、ぞ、れ、こ、も  
いと、易き、わざ、と、て、

春も、れ、夏も、く、き、又、秋も、く、水、つ、ひ、は、中、も、暮、れ、る、け、う、な、い  
翁、無、り、し、今、の、人、ち、え、か、ら、に、か、う、味、も、奇、を、わ、ら、い、い、と、を、こ、ち、う、し、と  
い、は、馬、革、齋、つ、れ、る、く、す、ま、し、て、さ、ち、怒、り、終、ひ、と、こ、こ、志、む、ら、く、武、人、の

な、を、七、言、ひ、て、く、つ、い、気、色、な、れ、バ、翁、声、す、と、く、い、づ、こ、の、詩、か、さ、る、怪、し、り  
歌、を、バ、よ、め、る、い、と、な、の、け、な、り、と、斬、な、む、き、バ、馬、革、齋、頰、脹、り、し、て  
「こ、い、か、で、か、怪、り、き、歌、な、る、か、き、我、ハ、古、も、稀、る、名、歌、と、こ、と、お、も、へ、

ま、づ、初、り、年、の、早、さ、と、蒸、汽、の、船、と、取、り、な、り、た、る、新、茶、ぶ、う、もの  
と、て、と、れ、より、跡、の、白、浪、末、の、松、山、と、市、ね、て、と、ぶ、め、た、る、な、ま、千、金、と、も  
重、し、と、せ、さ、る、か、あり、も、た、後、の、歌、ハ、小、倉、百、首、の、中、な、る、二、つ、の、歌、を、

本、歌、と、し、一、首、の、中、に、よ、し、こ、の、浅、茅、生、の、ゆ、き、を、の、と、兼、け、壱、尾、と  
と、つ、け、て、そ、の、を、又、字、より、更、に、を、し、き、と、つ、い、け、た、ふ、又、と、の、壱、尾、と  
よ、に、惜、む、心、の、つ、き、せ、ず、長、く、浅、茅、生、の、浅、か、ら、ぬ、心、を、こ、め、た、る、な、と

わ、い、ち、た、た、は、似、と、し、つ、る、を、不、今、の、人、ハ、サ、ま、い、の、體、こ、き、あ、れ、と、て  
海、の、い、の、ま、き、舟、一、年、ハ、湯、の、氣、の、船、と、走、せ、去、も、跡、の、白、浪、末、の、松、山  
ほ、ま、ま、の、の、ま、き、舟、心、も、あ、ま、り、て、な、ど、の、浅、茅、生、の、き、の、壱、尾、の、を、し、き、暮、ら、な、

な、を、七、言、ひ、て、く、つ、い、気、色、な、れ、バ、翁、声、す、と、く、い、づ、こ、の、詩、か、さ、る、怪、し、り  
歌、を、バ、よ、め、る、い、と、な、の、け、な、り、と、斬、な、む、き、バ、馬、革、齋、頰、脹、り、し、て  
「こ、い、か、で、か、怪、り、き、歌、な、る、か、き、我、ハ、古、も、稀、る、名、歌、と、こ、と、お、も、へ、

ま、づ、初、り、年、の、早、さ、と、蒸、汽、の、船、と、取、り、な、り、た、る、新、茶、ぶ、う、もの  
と、て、と、れ、より、跡、の、白、浪、末、の、松、山、と、市、ね、て、と、ぶ、め、た、る、な、ま、千、金、と、も  
重、し、と、せ、さ、る、か、あり、も、た、後、の、歌、ハ、小、倉、百、首、の、中、な、る、二、つ、の、歌、を、

いりし 巧も、中歌取りの純妙しこそいふの、何で、怪しき事  
べきと怨すれは、翁景もして、物も言はず、馬華齋ハいと誇りか  
鼻おごりかて、いぞよな、我れ情ちよけり、翁もろよろか入奇  
を試み給へ、それがい備さよ、あーと論らん、と、翁更にい  
へた、せむ、空おーあけて月を眺めなう、あなあてきなど、嘯る居  
たり、今思ふて、あーろくと、我れわきと空うち仰きて  
月行て市の影  
手のまをれん  
今こも暮きりく年のあれ、空を志してすの、月うな  
さすりた声ひきつらふひて、哀げようお出づれ、翁おとほえす後  
括とつんをん  
いそがしぬ年の暮だよあるものと、哀まそ、そ冬の夜、月  
ほろ、とうちほきて、なし、盃を手にすめり、その酒壺の、輕げ、わろく  
と、見やして、馬華齋、

又サカクマ  
月影の傾く、酒壺の傾く、見るとあはせなる、

と口吟め、翁、とうりや、ふを、ふのうな、今宵の香煙よ、ことあ、のれ、か  
むの、口つきを、持ちあ、怪し、のさ、見、お、わ、り、出、て、翁、と、苦、む、ら  
こそ、にく、れ、を、ふ、馬華齋ハ、翁の、心、を、み、た、る、を、見、て、言、い、け、ら、く、と、れ  
が、し、面、白、く、謎、解、一、有、仕、事、り、翁、も、さ、さ、す、ち、試、し、た、ま、い、こ、れ、と、合、い、せ、と  
とうち出でたる

冬籠り破障子の風吹きて、教習の夢ぞもれく、  
翁あまた、びょうろ、うらま、て

右  
年波の敏馬の胸、空まらなり、志、葛ヶ原に、風ぞ吹くら、  
馬華齋、翁の謎、古くさし、暮きりく、年を、恨む、ふ、い、と、か、こ、と



おまじ、左にさるりもなく、あうかすつ、論なり、夢の声、まじりしとよ、  
翁も世をた、左の歌、こと春待つ心、破障子のいとあらは、見ゆれ、右  
の飯、馬の浦の心、かをうき、に、調もこよなう、優見たり、うほま、葛原  
の風、音、まいた、かぶくもあす、とよ、馬草齋、またよ、舌、舌、見ぬ目  
の浦、うら見、うら、あ、や、破障子の法、を待つ心、むへ、こと、謎、吾の、新境  
と言、あ、を、と、数、言、の、取、合、せ、た、調、和、の、妙、の、古、ま、む、かり、の、右、の、比、ぶ、き、  
か、ふ、と、よ、翁、重、わ、て、よ、つ、か、下、か、然、ら、ん、み、ぬ、め、の、浦、の、見、下、と、す、れ、と、見、て  
か、え、あ、ぬ、こ、こ、深、き、心、む、へ、ハ、あ、ん、な、し、破、障、子、の、趣、を、下、り、こ、い、る、ふ、り、  
上、掃、よ、ハ、用、あ、ぬ、子、と、よ、ま、こ、我、勝、ち、ぬ、汝、負、け、ぬ、と、い、ひ、て、争、を、て、  
む、け、れ、ば、い、て、さ、う、は、神、の、占、ひ、て、勝、負、と、定、め、て、ん、と、て、鬼、の、甲、と、床  
の、肩、丹、も、らん、れ、ハ、餅、を、焼、き、て、ど、占、ひ、け、う、や、り、て、焼、き、と、や、く、を、ご、お、の  
つ、り、餅、の、上、の、文、字、と、あ、い、と、た、と、怪、し、と、思、ひ、て、取、り、上、げ、て、見、し、ハ、

年の暮の  
けり

年の渚は波こえてねと葛原と引きわづらへる水はあむらう

のり  
のり  
のり

春の花をたてて望月の持とすか  
とちもよしおかし人もよむ年の暮

翁下さ附けよとよ、翁も花やうら笑ひて、又も餅をかつぎ  
出されけりよな、をれ下を附けん、と、尻餅を翁の肩けとことな  
らぬ、翁の餅の、興せしとて、盃と取、あげ、さう、ふ、す、更、サ、リ、  
空、こ、百、り、敷、て、

亡き人の魂をとよさき一、大三十日

今、細げ、獨り、こ、う、た、る、と、馬、草、齋、と、く、ま、つ、け、て  
今、ハ、う、き、世、の、鬼、が、あ、る、な、り、  
今、こ、の、鬼、こ、と、あ、や、ー、ル、水、今、ハ、大、悔、の、こ、し、度、ぬ、出、づ、る、世、と、り、小、の

大  
小  
大



世もかぶらて人の家毎入りあふることよもとすなめげき鬼と  
あめ小いよ翁のソでさうたん言いもすあなむ秋のソこ更け  
ぬとバ翁のたつ寐とむとよ馬革齋のソでさうのあつた  
こよの夜とも詠しのかさ人翁のソと惜しき惜みあめ  
こよ身あちつづりよまふと一首いぬり出て死いと身むれはさうバ  
三十一文字の典少行しこもの詠いとさめ今孫一首よみてむとよ  
そよとよかめりくえバ翁眼のすりうたひけり

暮とわい  
物さ  
おのり子

ものたひぬ  
やめくま  
くら

暮とわい、平のおれとよ せめて遊まきうせむ  
うのり伴よさとわい 春と待つるどちりぬき  
馬革齋かうくとあが笑いて、などさふ弱きと某かくこしと  
冬の最中の平く小た 此でハせつぜり曲がよい  
ちば弥生よくとさせて きりと花くらたい

拍子をかき高きうたひ出原とバ翁の覚とす者を出て  
よあまのたしたる、今少し訂整して申せよ、馬革齋の  
今様をえ知らし、古きをかりよめでんとちるバ、我々旋頭奇  
を少子給へて

解さつる  
うらま  
口の毒

あら玉の平く小果ての暮よぬとよ  
暮よぬとし餅をし食てくぬとも  
翁いたく怒りて、そ今な詠みし、そちの強ち餅をかつぎ出して  
翁と若しむこと安からぬ、まして焼むの古餅を誰か食ふべき  
今ハのまが去りぬ、翁の多、寐えとよ、馬革齋心の中心も  
さてよの翁が焼餅の強さよとよやまき、さうは口むと極めて  
香ばしからん長歌一首仕らん、今志むしのまきりど、少き給へて声  
ひまつくらひて、徐ろと誦し出でたる

あ、玉の  
泣更ぢり  
騒きても  
わーりし  
我いた  
古の  
く小果了  
思へばや  
をーけしよし

年くさりた  
慕ひなげし  
とまらなく  
あゝ歎くらん  
去つしの追分  
かしこき人の  
今日のごまひ  
もちひ念ひて  
うつそみの  
浪のごと  
歎きてし  
いかちとバ  
まことの  
言まねぶ  
一ととせの  
我が放つ  
廿の人のことよ  
出でまぢわぢ  
かひちきもの城  
さハ駱くらん  
拒みハせじと  
とにあらねども  
月日のかすと  
辰の澤

反歌

大みそか月日のかすの別きゆえ

よま  
わ  
く

くさ、にえこととまむせね

いけすき給うや、とかうばうれん、なとつて、病と見かへ小はる  
の程、かうま、一も呼ぶとも、問一ども、つら、(ご)ま、し、馬革齋、眉うち  
いと、ウ、サ、て、も、つぎ、た、ち、も、あ、か、ま、り、の、名、歌、を、早、く、う、ち、出、で、  
る、か、せ、ざ、り、し、こ、口、を、ル、と、い、ふ、ま、つ、た、ま、ら、字、の、戸、を、あ、け、  
眺む小は、月と、雨、あ、ち、の、方、近、く、な、ぬ、あ、い、と、今、を、た、し、の、名、跡、と、  
誰、も、も、あ、い、共、に、身、よ、み、か、い、人、も、り、な、一、人、を、ハ、さ、し、か、ら、し、  
と思、い、沈、し、居、け、た、ら、ん、こ、も、な、く、人、の、物、語、り、す、け、し、し、ず、中、性、と  
思、い、て、耳、報、す、水、壁、一、會、ち、隣、の、家、を、人、々、う、ち、つ、ど、ひ、て、歌、が  
か、い、ま、ど、あ、り、け、し、馬、革、齋、眺、う、ち、騒、ぎ、て、つ、か、り、さ、か、り、う、ん、と  
つ、け、バ、ま、つ、と、お、は、や、う、る、声、と

世の中、の、ゆ、か、つ、ら、ま、思、い、ど、ま、か、せ、ぬ、もの、の、あ、り、つ、り、  
と、よ、や、サ、カ、こ、小、の、家、角、族、栄、え、樂、身、の、あ、る、人、を、と、問、く、た、あ、い、

こ  
の  
お  
の  
お  
の  
お

いとたかなげりし声

世の中の浮瀬の浪のひまきまきこき年浪のこえんとまん

是ハ倉し頼りたり人の身の上のうらとあつとかり、たふりつるものさか

たらちねも老の浪勢をひねびし我オ一つのし年の暮かえ

しすれ、考子の情さごとと思いゆるに、息うあふと叫びまゝ、つな

いしくたふさぬけ

射ぶること年ハ純ちけど武夫の様のろし行く時な一も

いかり、武夫の速懐かあんとしつとゆりりく、さして興ある事を聞

ものか、誰人ともあへん、我も往きて、泳みかえさむと思ふよ、女

す、り泣く声のするに、あつと耳をすませむ

年浪の末の松山こゆるこ頼めし人のおとづれハせて

とちぎれ、よのり、あつれ、まうを、つらり人の身の上を思ふた

とちぎれ、よのり、あつれ、まうを、つらり人の身の上を思ふた

か、あつれ、まうを、つらり人の身の上を思ふた

ま、あつれ、まうを、つらり人の身の上を思ふた

り、あつれ、まうを、つらり人の身の上を思ふた

ま、あつれ、まうを、つらり人の身の上を思ふた

の、あつれ、まうを、つらり人の身の上を思ふた

ま、あつれ、まうを、つらり人の身の上を思ふた

ま、あつれ、まうを、つらり人の身の上を思ふた

と刺とんだりの大声とわめかけとば、其声の我と我が首のつ入るゑん、  
愕然としておどろけ、ありし文机、仮寐の夢さめ、夜はけのぐとゆけ  
のけり、馬幸齋、服とすりまゝ、さても怪しき夢さても見つるものなま、さ  
りてし彼ののりわらわしつる、詠しかかりつる歌どしりか、かちつると、あ  
りて見まはせども眼よさへるものなき、唯ありし文机の上、一首の歌ぞ  
残りたし、取りあげて見よば

し年と年の始の終りのたぐ言の中うち流す夢の浮橋

まじりし夢  
すまじりし  
ふりつ

おちあふ  
同のすまじ  
りつ

あやしの夢せりくさめく窓をあけく見まで、夜にやめぬまは  
年立ちぬとふをり、つ、空うちかきみて日づけ来どさへは、まづ

昨日は夢のうまひ、さなげの霞、このたも曙のさ

と口をさみつ、いでよ霞のたれさくをいふ此日の夢を記さむとて、  
とよまかうざよ思ひたどるふ、志とたる計も多けきば、おならげな  
書きつけつ、せとより著も持もからぬたと言ふ、前の棚橋板く  
ちて、馬の腰さへ折まうくもかりぬ、たよとけし、ま、河の継ぐ  
そのま、ふ長柄の橋の長く、あむほきあつねど、岩橋や、ぬ夢の  
契もあやしの夜に、葛城の神の思ひ出するもと、残し、おくまへ  
見む人なり、たちし、は答めたまひと、ま、まかへ、年のりめ  
り、ま、ま、筆をとり、らせで、物のり、ま、かきつる。

斗波のよき満の津邊をかきあつめてどかひちりりり

馬華 齋 識

夢の浮橋の旧稿ハ明治二十五年の暮好マカラぬ課題

論文を辛く書きたる、直ちに筆を執つて日頃のいふせさを

造りたるものなり。これを病ハ卧しぬる同輩子規子規に

おくりたるよ、子ハこの一首毎、句と題し、程程と遷すとして「餅

の歌をやたね」といふ。子ハ元来餅好しもあり、又修學中の益

○

と手よせしとおまじひたし、酒のちハ思ひかけたりしらむ、げよさる  
趣向と構へて、一ハ局の設話とものせんかうは、酒なくしてあるべし  
ずと、更ニ稿の一部を改め、翁の酒を飲まする事とし、三首の  
都奇を除きて、別の酒の奇三首を織り込み、重なり子規子  
に寄せんといふたととの機さねずしとこしぬ。子規子規後  
ふと思ひ出で、蓬底より取り出て見ると、旧稿いたく汚損し

見合ふぬ汝がもあつた。由き事とてけりし。今又悔しき  
子規子の評語のみを切り取り、こを清書したる新稿の上へ張り  
つけ、書つても堪能かりし子規子の筆跡と存し、せめてこの記  
念とせむむかりき。

子規子逝つたる年の暮、丹、旅行の出てきりんとて  
あわたししく志こしりし。  
馬華齋又識

旧稿より除き去りたる歌歌の子規子評語

○ (たれ歌よみかこしたる歌) (たれ歌よみかこしたる歌)  
一 (たれ歌よみかこしたる歌) 一 (たれ歌よみかこしたる歌)  
月日のたれかこしたる歌

○ (たれ歌よみかこしたる歌) (たれ歌よみかこしたる歌)  
月日は花おもしろし雪白し煙のかたのし斗もくねぬ。

○ (たれ歌よみかこしたる歌) (たれ歌よみかこしたる歌)  
あはれこしし傾きれくか馴れとすしし中らるるうらまの月

えりや上やう  
毒子まの月

馬華齋又識  
子規子の評語のみを切り取り、こを清書したる新稿の上へ張りつけ、書つても堪能かりし子規子の筆跡と存し、せめてこの記念とせむむかりき。  
子規子逝つたる年の暮、丹、旅行の出てきりんとてあわたししく志こしりし。  
馬華齋又識

馬車高又よ後年漱夏月氏「吾輩」猶であるともいせ  
時桂月大町氏見て徹以徹尾餅菓子炊類張のうみ  
きの一節もなし何ぞ思趣向と評せしきりくとも夏  
月氏少きて大町の評はかんがふんのかんちやといふも  
子ハ金もあつ夢の浮橋の昔おもひ出でらして獨りそふ  
こ代りし

子規子の廿年祭一本さうして箱崎  
馬車高重なりて識す  
貽らんとて

夢の浮橋は杏翁菊池壽人君の作なり。君と交を重ねる事正に四十年殆んど公私に亘り内  
外に通ずるものあり。君と爲り謹厚笑諠を妄りにせず時に或は哄笑し或は噴飯を禁せざ  
る事あるも未だ嘗てその吟詠の諧諷を解くが如きものあるを知らざりき。曩に君が名著  
萬葉集精考の賀宴に於て偶々原榮君の談君が狂歌數十首に一々子規が評句を加へたるもの  
ある由に及び予初めて君にかゝる作あるを聞知したれどもその技巧に於ては蓋し知るべき  
耳と爲し、が一たび之を聞するに及びて驚歎措く能はず殆んど謹厚なる君が作なるを疑は  
しむ。

凡そ諧諷は謹嚴莊重の裡より突如として發するにあらざれば、爆笑に値せず。君が平素の  
謹厚は實に今日この一巻を以て予を驚かさんが爲なりしかと思はる、までげに雙び無き珍  
品なり。殊に子規が評句をさへ加へたれば、眞に錦上花を添ふるものと謂ふ可し。今茲にそ  
の複製成り夢の浮橋のありの姿、さながら現し世に出づるを見て、歡喜に堪へず、敢へて懷ふ所  
を巻後に記す。

大晦日

何とまあ馬革齋にも程あれや

狂歌飛鳥とせまる歳暮に

大晦日月さへあるに子規

こゑうち添ふる夢の浮橋

四十年もとだえし夢の浮橋の

いま目のあたりかゝる嬉しさ

昭和丙子四月

杉 敏 介

昭和十一年四月二十五日印刷  
昭和十一年四月二十九日發行

11. 4. 25

東京市小石川區久堅町五十八番地  
杉 敏 介 人  
印刷者 東京市墨谷區野丘八十四番地 實  
印刷所 東京市墨谷區野田町一三二番地 水 印刷所  
東京市京橋區京橋二丁目九番地  
共立印刷株式會社



302  
259

1871

Year	Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sept	Oct	Nov	Dec	Total
1871	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70
1872	12	18	22	28	32	38	42	48	52	58	62	68	72
1873	14	19	24	29	34	39	44	49	54	59	64	69	74
1874	16	21	26	31	36	41	46	51	56	61	66	71	76
1875	18	23	28	33	38	43	48	53	58	63	68	73	78
1876	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80
1877	22	27	32	37	42	47	52	57	62	67	72	77	82
1878	24	29	34	39	44	49	54	59	64	69	74	79	84
1879	26	31	36	41	46	51	56	61	66	71	76	81	86
1880	28	33	38	43	48	53	58	63	68	73	78	83	88
1881	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90
1882	32	37	42	47	52	57	62	67	72	77	82	87	92
1883	34	39	44	49	54	59	64	69	74	79	84	89	94
1884	36	41	46	51	56	61	66	71	76	81	86	91	96
1885	38	43	48	53	58	63	68	73	78	83	88	93	98
1886	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
1887	42	47	52	57	62	67	72	77	82	87	92	97	102
1888	44	49	54	59	64	69	74	79	84	89	94	99	104
1889	46	51	56	61	66	71	76	81	86	91	96	101	106
1890	48	53	58	63	68	73	78	83	88	93	98	103	108
1891	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105	110
1892	52	57	62	67	72	77	82	87	92	97	102	107	112
1893	54	59	64	69	74	79	84	89	94	99	104	109	114
1894	56	61	66	71	76	81	86	91	96	101	106	111	116
1895	58	63	68	73	78	83	88	93	98	103	108	113	118
1896	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105	110	115	120
1897	62	67	72	77	82	87	92	97	102	107	112	117	122
1898	64	69	74	79	84	89	94	99	104	109	114	119	124
1899	66	71	76	81	86	91	96	101	106	111	116	121	126
1900	68	73	78	83	88	93	98	103	108	113	118	123	128

終

